

News Release

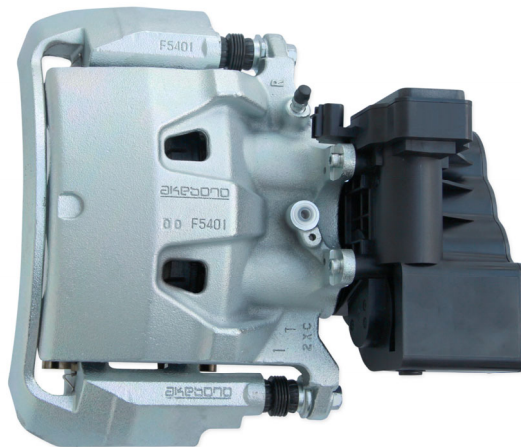
2024年3月6日

曙ブレーキ、世界初の独自機構を持つ「中小型トラック用電動パーキングブレーキのモータギヤユニット開発」で「日本機械学会賞(技術)」を受賞

曙ブレーキ工業株式会社(代表取締役社長:宮地康弘 本店:東京都中央区 本社:埼玉県羽生市)は、「中小型トラック用電動パーキングブレーキのモータギヤユニット開発」において、一般社団法人日本機械学会より、2023年度「日本機械学会賞(技術)」を受賞することが決まりましたので、お知らせいたします。

日本機械学会賞は日本の機械工学と工業の発展を推奨することを目的として、1958年に設けられ、毎年優れた論文、技術、製品が表彰されています。akebonoは1982年に「乗用車用新形ディスクブレーキの開発」で自動車部品業界として初めて同賞を受賞しました。さらに2016年には「市販ロードカー用高性能自動車ブレーキの開発と量産化」で受賞し、今回が3回目の受賞となります。

自動車業界では、自動車の電動化により搭載システムの電子制御化が進んでいますが、ブレーキに対しても消費電力の低減、車両の軽量化、安全性向上につながる製品開発が求められています。その動向は乗用車用のみならず商用車用にも波及しており、さらにはドライバーの負担軽減につながる製品のニーズも高まっています。akebonoは、これらのニーズに対応すべく、高出力かつ耐久性に優れた電動パーキングブレーキ用モータギヤユニットを開発し、量産供給を実現しました。



中小型トラック用電動パーキングブレーキキャリアパー

この製品は、中小型トラックの多くに適用されている2ピストンディスクブレーキをベースとしています。1つのモータ出力を2つのスピンドル機構を介し、2つのピストンに伝達する世界初の独自機構により、軽量かつ小型化を実現するとともに、発生出力は既存の他社量産品に対し200%以上もの高出力となっています。出力を得るために必要な電流値は10A程度と乗用車用既存製品と同等に抑えるとともに、車両1台当たり3kg以上の軽量化を図っています。今後は国内外の様々な車種へこれらの技術の展開を進めていきます。

akebonoは、これらの技術開発により、持続可能な社会の実現を目指し、環境に配慮した安全・安心な社会づくりに貢献します。今後とも、当社のコア技術である「摩擦と振動、その制御と解析」に関わる全ての分野において世界を牽引する存在となるべく、独自技術の構築に向け研究開発に取り組んでまいります。